

No.9	高度化		
氏名	山本 花菜	食マネジメント学部	2回生
1. 出願時のテーマ・目標を具体的に記述してください。			
【テーマ】 「FakeからRealへ」-自作の偽物の食べ物の商品→利益→寄付→本物の食べ物を届ける-			
【目標】 フェイクフードを用いたアクセサリー・雑貨を製作し、学園祭や地域のフリマ、さらにはオンラインを用いた形で販売します。また、商品を売ることに加えて、体験や思い出を創造する手助けができるような活動をします。特に今年はコロナウイルスの影響もあり、「お出かけ」というものが特別な行為となることが予測されます。フリーマーケット等に参加可能となった場合、対面のコミュニケーションを、このような局面だからこそ重要視していきます。さらに加えてオンラインでもコミュニティがとれる手段を模索します。具体的には、体験教室や手作りキットの販売、オンライン教室を行います。そこから得た利益の一部は、国連WFPに寄付し、本物の食べ物として食料の乏しい地域に届けます。			
2. 上述のテーマ・目標を実現するために実施した計画を具体的に記述してください。			
結果として、対面での活動は困難となりました。従って非対面での活動を行いました。具体的には「オンライン販売」「オンライン体験教室の企画」「お店での店頭販売」「情報発信の学び及び実践」を行いました。オンライン販売ではメルカリをはじめとする3つのアプリケーションを利用して、商品の販売を行いました。またそれらの宣伝として自身のSNSアカウントとの連結を行いました。オンライン体験教室の企画では、ビヨンドキッチンとしてオンライン企画を行っていた先輩に、アドバイス及び協力をあおりました。その上で、クリスマスとバレンタインに合わせたzoomでの粘土教室を企画しました。しかしながら私自身が手の手術を受けることになってしまい、実際に開催することは出来ませんでした。店頭販売では知人のお店に自身の商品販売コーナーをおいていただきました。情報発信の学び及び実践では、経営学部の先生にアポをとり、デザインマネジメントについての学びを深めさせていただきました。それを元に伝える資料作成を行いました。			
5. 今回（今年度）の取り組みについて、今後の活動展開と展望を記述してください。			
今回で学んだ逆境だからこそ見えてきた視点を活かしていきたいです。具体的にはオンラインでの販売を新たに一つの手段として取り入れていきたいです。また今まではひとりでアイデアを考え商品を作ってきました。これからは、複数での大規模なものにも挑戦していきたいです。			
6. 今回（今年度）の取り組みは、今後の学びや進路にどのように影響しますか。			
今回の取り組みでは、コロナという自分の力ではどうしようもない縛りに悩み続けました。このことは、一見今特別な状況下に置かれてしまえるので私たちだけが不幸であるように思われます。しかしながら、予想外の出来事や外部からの力というのはいつ何時も働いているものであると思います。従って、今回このような状況下で「何も出来ない」と悔やむのではなく、「どうしたら何が出来るのか」ということを考え続けた経緯は自分を形作るプラスの要素になったと思います。頭を悩ませて実際の行動まで移せたものもあれば、残念ながら志半ばで諦めたものもあります。そのどちらもプロセスとして今後生きていくと信じています。			
7. 今回（今年度）の活動が周囲に与えた影響（社会・周囲）への貢献・還元 の点で記述してください。			
今回の取り組みでは、昨年度ほどの売り上げを出すことが出来ず、寄付を行うことが難しい状況になってしまいました。そこで、どのような形での社会貢献が今の私には行えるのかということを考えました。結論としては、人との触れ合いを感じてもらえる場をつくることであると導き出しました。そのために、実際には開催出来ませんでしたが、オンラインでのコミュニティづくりを行おうと企画しました。			

3. 個人の成長の軌跡3-1. 取り組みの過程でどのようなことがあったのか、グラフを作成してください。

3-2. グラフで書いた☆（個人がもっとも成長したと思うポイント）では、その過程で学んだこと、気づいたことについて具体的に書いてください。

昨年度の活動を元に計画的に進める力は自分自身についていました。だからこそ、計画どりに出来ないもどかしさを痛いほど感じていました。そこに臨機応変さを加えることが出来たことは大きな成長であったと思います。目的を改めて定義し直して、そのためなら、手段の変更はいとわいな強さを手に入れられたと思います。

3-3. “今回（今年度）の取り組み”と“正課の学びや取り組み”は、どのような関連や影響（相互作用）がありましたか？

今回の取り組みを通して、オンライン広報の理論と実践を同時に学ぶことが出来ました。また、コロナ渦での人々の購買への意識の変革をこの身で感じる事が出来ました。このことは、昨年度から継続してこの活動をさせていただいてきたこととの比較から気づけたことであると感じます。正課と課外が両者あったからこそ、社会の変革をより深い視野から考察できました。このことを未来への創造へと繋げていけるようにしたいです。

4. 本奨学金を受給したことで、以下の項目についてどのような影響を与えたか5段階で評価してください。（該当ナンバーに○）
また、併せて評価の理由も書いてください。評価例：【 1（達成できなかった） ← 3（どちらともいえない） → 5（達成できた） 】

① 目標の達成度	2
<理由> 目標設定はほとんど達成できませんでした。その代わりに新たに目標を立て直す力を身につけました。	
② 計画の達成度	3
<理由> 計画どりに進まないことがほとんどでした。崩れても立て直す力を身につけました。	
③ 取り組みを通じた自己成長	4
<理由> どんなことがあっても立て直そうとする自分の強さに気づきました。また強くなりました。	

10. 今年度の取り組みを通じて最も身についたと思う力について、具体的に記載してください。9の設問で回答した力でも、それ以外でも構いません。

① 身についた力
物事を多角的に捉える力

② ①で記述した力について具体的に説明してください
今回は個人での活動だったため、モチベーションが上がるも下がるも自分次第でした。そんな中緊急事態宣言が何度も発令されて思うような活動が出来ず、もどかしい時間を強いられました。当初はただ今の状況を残念がるばかりでした。しかしながら、次第に「今だからこそ出来ることがあるのでは」という思考回路を見いだすことが出来るようになりました。半ば強制的にオンラインへの移行が進められました。そこで、そのことをプラスにとりzoom等での立ち振る舞いを学ぶ機会を積極的に取り入れました。また、資料作成という「見える」伝え方も学びました。

③ なぜその力を身につけることが出来たのか、成長を手助け・促進させた要因を記載してください
思うような活動が出来ないというマイナスに思える環境下が、逆に自分自身の新たな力を見いだしてくれたと感じます。逆境は言い換えれば今までとは異なる視点が見えてくる時です。いかにくたばることなく、貪欲にいけるかということを大切にしていきたいと思いました。